

【 第6回 東アジア選手権 】

2018年7月3日～7月8日 開催地:香港

試合結果報告

7月7日 (土)

JPN	VS	HKG(香港)
16	前半	8
17	後半	8
33	合計	16

個人得点

名前	得点	合計
1 石 濱 壘		0
2 佐 藤 陽 太	2	2
3 久 保 寺 步 夢	2	2
4 可 児 大 輝	5	5
6 窪 田 礼 央		0
7 安 平 光 佑	1	1
8 清 水 裕 翔	4	4
9 吉 田 守 一	3	3
11 藤 川 翔 大	6	6
12 矢 村 裕 斗		0
13 角 本 洵	1	1
14 山 口 直 輝	2	2
15 石 嶺 秀	2	2
16 大 禮 佑 介		0
18 梶 山 瑞 生	3	3
19 金 津 亜 門	2	2
25 蔦 谷 大 雅		0
	33	33

戦評

中1日のブレイクを経ての第4戦、相手は地元の香港代表。日本は中国、モンゴルに連勝、続くチャイニーズタイペイには後半の粘りで引き分けとして、現在は2勝1分で韓国に次いで暫定2位につけている。香港は体格はないものの、スピードとフェイントに特徴のあるチームであり、ホームゲームであることもあり、決して楽な相手ではない。午前中の練習では、チャイニーズタイペイ戦で課題であったDFを中心にトレーニングを行った。ボール位置と自身のポジショニングを意識的に確認すること、6人全員がボールサイドに密集すること、コミュニケーションを大切にしその都度臨機応変に対応することを約束した。

試合は序盤、石嶺、吉田、久保寺の活躍で4-1とスタートダッシュに成功するも、No.36YUのテクニカルなサイドを決められ、15分時点で9-6、なかなか波に乗れなかった日本セブンだが、可児が攻守に活躍、金津、山口、梶山と続き、前半は16-8で終える。

後半に入ると、日本は藤川の強打とブレイクスルー、角本のポスト、梶山の速攻で5連取。No.24LEEにサイドを決められるも、藤川、梶山、清水、安平で再び5連取し、後半15分には27-10と試合を決めた。最終的には16失点に抑えることができたが、コンタクトの強度や連携の部分では反省点の多い試合となった。明日の韓国戦は、コンディション、戦術、気持ちの全てをベストの状態で行う準備をしたい。

なお、この試合のベストプレイヤーには先発出場し、途中コンタクトが外れるアクシデントがあったもののファインセーブを連発したGK・大禮祐介が選ばれた。

報告記入者 :

吉田耕平